

白馬村第5次総合計画 後期基本計画（素案）に対する意見への回答

No	ページ	議事録 ページ	箇所		担当課	計画審議会での意見・提案	村の考え方・回答	計画素案の 修正の有無	
			中分類	小分類					
1	28	3	中分類	多様な人々の交流・共生	総務課	地域おこし協力隊員数について、前期では10人の目標だったのが、実績8人、後期でまた10人と目標が設定されている。地域おこし協力隊については、数だけでなく、3年間の任期後にどれだけ定着をしてもらえるかが重要ではないかと考える。協力隊員の定住率などの現状について教えてもらいたい。また、そういったことを目標に掲げるなど検討してほしい。	地域おこし協力隊については、採用の条件として定住について求めていることや、地域おこし協力隊員の定住につながる施策は「移住者数」の指標と重なるため、現状のままとします。地域おこし協力隊に定住をってもらうことも重要であるが、それ以上に協力隊員の能力を活かし、白馬村で「なに」をってもらうかがより重要であると考えています。	無	
			小分類	移住・定住の促進と住環境の充実					
			指標	地域おこし協力隊員数					
2	25	4	中分類	住民参画と協働	総務課	集落支援員の目標数が5人となっている。集落支援員は、人口が減っている中で集落にとって非常に助かっていると聞いている。ただ、30地区ある中で5人という数字が妥当なのか。活用できている地区もあるが、制度を知らない地区や、うまく使えていない地区もある。もう少し人数を増やすや、周知させることについて考えていただきたい。	集落支援員については、現在小規模集落を中心に支援を行っている。地区で抱える課題は様々であるが、現状では4人が最適な人数であると考えている。従って、目標は現時点の課題等を考慮し、5人とした。また、活用については、引き続き区長会議や広報はくば等で周知していきたい。	無	
			小分類	行政区の継続的な活動の支援					
			指標	集落支援員数					
3	36	4	中分類	子育て支援	子育て支援課	・子育てに関する交流や相談の場づくりと適切な情報発信の中で、3行目以降「建築から40年以上経過し老朽化が進んでいることから、現在計画している白馬村図書館等複合施設基本計画に沿って事業を進める」とあるが、これは複合施設に関して子育てとして話が進んでいないと思っているが、役場としては既に建設をすすめていながら、子育てと複合化という事では矛盾している。このままでよいと考えるのか。 ・図書館の複合施設に子育て支援の施設は含まれないととらえたが、子育て支援の施設はぜひ作っていただきたいとお願いしたい。	現在、白馬村図書館等複合施設基本計画においては、子育て施設が複合化の対象となっていると認識しており、表記については変更無しとしたい。 前段部分の表現方法を一部変更したい。	有	
			小分類	子育てに関する交流や相談の場づくりと適切な情報発信					
			指標						
4		5	中分類	全般	総務課	全般を通してとなるが、現状のコロナ禍について、それに対する対策などの内容は記載されていない。観光業に携わるものとして、非常に危機的状況となっている。7～9月は学生の体育・文化系の合宿を主として営業していたが、今年は全く皆無となり、この冬に関してもどうなるかわからない状況であるため、展望が見出せない。このような状況に対してどうあるべきかという事や、救済措置について盛り込んでおくべきではないかと思う。私は五竜にいるが、飯田飯森地区で最盛期から100件近く宿泊施設が減っている。この危機的状況も踏まえて検討していただければと思う。	基本計画内の個別指標としては、審議会内での回答の通りその指標等の下にそれぞれの個別事業があるため、その個別の事業内で具体的な事業を実施していきます。 ただし、基本構想内の基本目標に対する現状と課題として、コロナ禍について加えることを行います。	有	
			小分類						
			指標						

5	51	6	中分類	優良農地の保全	農政課	<p>農業者の代表として意見させていただきたい。27頁の耕作放棄地の指標について、現状白馬の場合、神城地区はほとんど圃場整備が済んでいて荒れた農地は少ないが、北城地区については荒れた農地が多く課題になっている。目標値が農振農用地の再検討となっているが、これは目標として当てはまらないのではないか。現状の9.2haを減らしていくような数値にしていかなければおかしいのではないか。</p>	<p>今後、耕作放棄地の復旧は、ほ場整備等の公共事業による解消がメインとなる。従って、後期計画ではまちづくりや都市計画など各プランと整合性を取りながら、守っていくべき農地かそうでない農地かを精査していきたい。9.2ha→8.2ha</p>	有
			小分類	里山景観の保全				
			指標	耕作放棄地面積				
6	51	6	中分類	優良農地の保全	農政課	<p>ほ場整備の推進について、北城南部地区や新田地区は始まっているが、八方口から八方にかけてのいわゆる北城西部地区について、話し合いを始めていかないと、荒れ始めている。何かしらの形で、北城西部地区の話し合いを始めるなど文言を記載する必要があると考える。</p>	<p>ほ場整備を推進する上で、基本的には地権者全員の同意が必要（重要）であり、地元の合意形成が図れるか不透明な部分がある以上、現時点で第5次総合後期計画へ、何らかの記載は困難である。また、「白馬のまちづくりマスタープラン」では、当該地区は観光市街地の一部でもあり、今後の社会情勢等の変化も注視すべきであるため、地元の合意形成が図られた時点で、記載していきたい。</p>	無
			小分類	ほ場整備の推進				
			指標					
7	52	6	中分類	優良農地の保全	農政課	<p>認定農業者の支援について、神城地区はそこそこの規模の農家がそろっているが、北城地区は農業法人1社で相当数を受けていて、距離的にも厳しい。課題として、北城地区の認定農業者の増加について加えていただきたい。</p>	<p>ほ場整備にあわせ、地元の農業者から規模拡大志向の農業者には認定農業者の資格取得を進め、集積、集約を推進していきたい。</p>	有
			小分類	認定農業者への支援				
			指標					
8	58	6	中分類	次世代を担う子どもたちの学習支援	教育課	<p>南北小学校の統合についての検討が始まるなどと話を聞いているが、そういったことに関する内容が記載されていないが、そういったことは触れないままでよいのか。</p>	<p>国際化する社会に生きる子どもたちが、白馬の自然と風土の中で人間性豊かに成長し、個性と創造性を伸ばしながら社会の変化に主体的に対応して未来を切り開く力を育めるよう、家庭・学校・地域がそれぞれの役割のもとに相互に連携・協力する環境をつくります。<u>また、白馬村の将来を見据えた学校のあり方の検討を開始し、有効で効率的な学習支援について研究します。</u>（下線部分を加えます）</p>	有
			小分類					
			指標					
9	60	6	中分類	次世代を担う子どもたちの学習支援	白馬高校支援係	<p>白馬高校の他県からの入学者数の目標が20名となっており、しろま学舎の目標数が60名となっているが、全国募集は40名で行っているのにかかわらず目標値が20名というのは、白馬高校生を増やす意欲がないようにとらえられるが。</p>	<p>他県からの新規入学生は毎年20名程度と考えており、3学年を通しての他県からの入学生は60名程度としていきたい。しろま学舎については、授業内容の充実や個別対応等を図り、常時の通塾生を60名以上としていきたい。今後については、いかに小谷・白馬の中学生から選ばれる高校としていくかが重要になり、地元からの入学生を増やす方法を考えなければならない。</p>	無
			小分類	地域を担う人材の育成				
			指標	白馬高校他県からの入学者数				
10	67	9	中分類	天恵の自然との共生	総務課	<p>クリーンエネルギーについて、EV助成件数が加えられたのは非常に良い。文中で、低公害公用車を導入・更新しますとなっているが、低公害公用車両数の指標について6台から6台の維持となっているのは消極的にだと思う。また、全公用車数の割合なども出してもらえるとありがたい。</p>	<p>低公害車の導入計画についてはについては、車両更新計画との調整が必要であり、今後5年間の中で、車両を更新する予定は1台であるが、その1台は既に低公害車であるため、6台としたい。また、全公用車数に対する低公害車の割合は、現時点では52%である。目標値については台数としたい。</p>	無
			小分類	クリーンエネルギー・自然エネルギーの利活用				
			指標	低公害公用車両数				